



CONTENTS

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 技術士試験対策セミナーのご案内
- 編集委員会企画ランチョンセミナーのご案内
- 第42回大会での託児室の申込みについて

平成28年度第3回常任評議員会議事録

日 時：平成28年9月10日(土) 13:00～15:20

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員，第42回大会組織委員長 計15名(欠席1名)

議 事：

I. 平成28年度第2回常任評議員会議事録について確認した。

II. 経過報告および議事

1. 財務関係

- ・平成28年度収支の現状(1月1日から8月31日まで)について報告があった。
- ・前期分について公認会計士による監査が実施された旨の報告があった。

2. 編集委員会

- ・JPS第41巻4号と和雑誌42巻1号の発行について報告があった。

3. 環境委員会

- ・平成28年度の残留農薬分析セミナーの開催予定について説明があった。
- ・農薬理解促進WGの活動状況について報告があった。

4. 将来計画委員会

- ・活動状況について報告があった。

5. ホームページ委員会

- ・活動状況について報告があった。

6. 学会賞受賞者選考委員会

- ・平成29年度の日本農薬学会賞の候補者の選考状況について報告があった。

- ・第2回選考委員会は9月27日に開催予定。

7. 植物保護科学連合

- ・平成28年度の日本学術会議シンポジウム(12月3日開催)について報告があった。

8. 日本農学会関連

- ・平成28年度のシンポジウム開催および次年度のシンポジウムのタイトルについて報告があった。
- ・法人化について検討経過の報告があった。

9. 公益法人農学会

- ・平成28年10月7日に技術者教育推進委員会勉強会が開催予定。

10. 農薬科学研究奨励金関連

- ・平成28年度農薬科学研究補助金について公募案内や審査方法が確認された。
- ・農薬科学研究奨励金の英語表記について検討され Grant-in-Aid for Pesticide Science と決定した。

11. 学術小集会関係

- ・学術小集会との懇談会に向けて、検討課題を整理した。

12. 役員・評議員選挙関連

- ・平成28年度に実施される役員・評議員選挙の投票方法の告知方法について報告があった。

13. 40周年記念事業関連

- ・記念事業収支経過報告があった。
- ・アーカイブ化の進捗状況について報告があった。

14. 第42回大会関係

- ・大会準備の進捗状況について説明があった。
- ・シンポジウムの準備状況について説明があった。

15. 研究会等の協賛について

- ・平成28年10月27, 28日にホテルメトロポリタン長野(長野県長野市)で開催予定の第33回製剤と粒子設計シンポジウムを協賛することを承認した。

16. 入退会の報告(平成28年7月16日～8月31日)

- ・入退会が承認された。入会は正会員5名, 学生2名, 海外会員1名。退会は正会員6名, 終身会員1名。

17. その他

なし

平成29年度日本農薬学会賞の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された奨励賞、業績賞（研究・技術）の受賞候補者について、評議員（会長、副会長を含む）による無記名投票を行った結果、受賞者が下記の通り決定された。また、編集委員会から推薦され学会賞受賞者選考委員会で選考された論文賞候補についても評議員（会長、副会長を含む）による無記名投票を行い、受賞論文が決定された。

奨励賞

- 永井孝志：種の感受性分布を用いた農薬の生態リスク評価に関する研究（農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター）

業績賞（研究）

- 橋床泰之：化学生態学に基づいた植物病原菌および脱窒細菌の代謝制御に関する研究（北海道大学大学院農学研究院）

業績賞（技術）

- 古谷敬，町谷幸三，藤岡伸祐，中野元文，稲垣勝裕：殺ダニ剤「ピフルブミド」の開発（日本農薬株式会社）
- 木村教男，橋爪雅也，草場友之，田中創一：殺菌剤「フェンピラザミン」の開発（住友化学株式会社，住化テクノサービス株式会社）

論文賞

- Yoshitaka Tomigahara, Hirokazu Tarui, Hirohisa Nagahori, Kenji Sugimoto, Masayuki Mogi, Kazuhiko Nishioka, Satoshi Kawamura, Naohiko Isobe, Yasuyoshi Okuno and Hideo Kaneko: "Species differences in the developmental toxicity of procymidone —Remarkable variation in pharmacokinetics, metabolism, and excretion—" 40, 111-123 (2015)

会 員 異 動

（平成28年9月1日～平成28年11月30日）

入会

正会員

近久 史明 大川 哲生 安納 弘親 中川 有理
酒井 裕史 大平 竜二 堀江 清孝 山下 浩一
佐飛真理子

学生会員

森 裕子 釘屋 敦基 城埜 歩美 武藤 千明
斉藤 拓弥 越智 吉明

（受付順）

退会

平岡 幸浩 川井 正 森 達摩 中村 俊介
川口 哲司 河村 真帆 佐藤 怜 足立 康
舩澤 禎英 榎本 幹 穀野 学 岡部 淳
林 剛志 竹谷 隆良 中島 晋也

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛する会議等

2016年

2月

28日(火) 第1回日本生物防除協議会シンポジウム

主 催：日本生物防除協議会

会 場：江戸東京博物館ホール [〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1]

U R L : <http://www.biocontrol.jp/symposium.html>

3月

6日(月)～8日(水) 日本農薬学会第42回大会

主 催：日本農薬学会

会 場：愛媛大学城北キャンパス [〒790-8577 松山市文京町3番]

U R L : <http://pssj2.jp/congresses/42/taikai42.html>

4月

21日(金) 第34回農薬生物活性研究会

主 催：日本農薬学会 農薬活性研究会

会 場：東京農業大学 校友会館グリーンアカデミー 3F 大会議室 [〒156-0054 東京都世田谷区桜丘3-9-31]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/bioactivity/bioactivity34.html>

29日(土) 第27回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム

主 催：日本植物病理学会

会 場：アイーナいわて県民情報交流センター [〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号]

U R L : <http://www.ppsj.org/meeting-danwa.html>

8月

31日(木)～9月1日(金) 第40回農薬残留分析研究会

主 催：日本農薬学会 農薬残留分析研究会

会 場：大妻女子大学（千代田キャンパス）講堂 [〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地]

U R L : <http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanryu40.html>

10月

5日(木)～6日(金) 第37回農薬製剤・施用法研究会および
第35回農薬環境科学研究会

主 催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会および農薬
環境科学研究会（合同開催）

会 場：静岡県コンベンションアーツセンター／グランシッ
プ [〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4]

U R L： <http://pssj2.jp/committee/formulation.html>

U R L： <http://pssj2.jp/committee/environment.html>

11月

17日(金) 第32回農薬デザイン研究会

主 催：日本農薬学会 農薬デザイン研究会

会 場：大手町スカイホール [〒100-0004 東京都千代田
区大手町2丁目6番1号 朝日大手町ビル27階]

U R L： <http://pssj2.jp/committee/design.html>

技術士試験対策セミナーのご案内

第42回大会ランチョンセミナー ～技術士活動の具体的なイメージをつかもう～

日本農薬学会では、大会時に開催する「技術士試験対策セミナー」において、技術士（農業部門・植物保護）の国家資格の取得支援として、試験の概要や対策に関する情報を提供してきました。第42回大会では、技術士資格を取得した後に実践されている活動についてご紹介し、技術士に対する具体的なイメージづくりにつなげていただければと思います。これから取得を目指す方もすでに取得された方も、また、技術士について知りたい方など多くの方のご参加をお待ちしております。

- 1 日時：平成29年3月8日(水) 12:30～13:30
- 2 場所：愛媛大学城北キャンパス
第42回日本農薬学会大会 ランチョンセミナー E会場
- 3 募集人数：50名（当日朝から先着順でチケットを配布します）
- 4 内容
 - (1) 制度の紹介
演者：日本農薬学会技術士育成推進委員
公益財団法人東京都農林水産振興財団 橋本良子
 - (2) 講演：「技術士の活動の場～GAPの取組支援～」
演者：一般社団法人GAP普及推進機構 今瀧博文

GAP：GAP（Good Agricultural Practice）とは、農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のことです。これを我が国の多くの農業者や産地が取り入れることにより、結果として食品の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保、競争力の強化、品質の向上、農業経営の改善や効率化に資するとともに、消費者や実需者の信頼の確保が期待されます。（農林水産省ホームページより）

演者はGAPの世界標準となりつつあるGLOBALG. A. P. を日本で普及推進する目的で設立されたGAP普及推進機構の運営に携わる中で、GAPの取組支援、国際認証に関する理解促進や我が国の農業への導入に携わり、技術士として広く活動しています。

編集委員会企画ランチョンセミナーのご案内

第2回 編集委員長と話そう！

～若手研究者の論文投稿促進に向けた先輩・上司の役割は？～

日本農薬学会編集委員会では、若手研究者による学会誌への論文投稿を支援するため、3月に愛媛大学で開催される第42回日本農薬学会大会において、以下のようなランチョンセミナーを企画しました。学会誌への投稿経験がない若手研究者の皆様にお集まりいただき、論文の執筆から投稿、審査、掲載に至る過程で気を付けて欲しいポイントを解説します。また、先輩・上司の方々にもお集まりいただき、若手研究者の論文投稿促進に向けた役割について意見を交換したいと思います。論文投稿に向けて一歩を踏み出したい方々、先輩・上司の役割について議論を深めたい方々、奮って御参加ください。

記

- 1 日時：平成29年3月7日(火) 12:30～13:30
- 2 場所：愛媛大学城北キャンパス
第42回日本農薬学会大会 ランチョンセミナー会場
- 3 募集人数：40名（先着順，当日朝からチケットを配布します。）
- 4 内容
 - (1) 講演：「初めての論文投稿で気を付けるべきポイントは？」
演者：日本農薬学会編集委員長 東京農工大学大学院 教授 夏目雅裕
 - (2) 事例紹介：「千葉県農林総合研究センターにおける若手研究者の論文投稿促進に向けた取り組み」
演者：千葉県農林総合研究センター 山本幸洋
 - (3) 意見交換

編集委員長 夏目雅裕

第42回大会での託児室の申込みについて

お子様をお持ちの会員の方々に安心して年次大会に参加していただくために、乳幼児を含む未就学児童から小学生（3ヶ月～12歳）までのお子様を大会期間中にお預かりする託児室（無料）を設置いたします。ご利用には事前の申込と手続きが必要です。託児室の利用をご希望の方は、学会ホームページをご参照いただき、ファックスかメール添付ファイルでお申し込みください（申込期限は延長致します）。

ご質問などは、第41回大会組織委員会または学会事務局までお願いいたします。

問い合わせ先：愛媛大学生物有機化学研究室
日本農薬学会第42回大会組織委員会
〒790-8566 愛媛県松山市3-5-7 愛媛大学農学部
TEL：089-946-9973
E-mail: nishiwaki.hisashi.mg@ehime-u.ac.jp
担当：西脇 寿

減反政策もあと2年と終焉に近いが、麦や大豆など転換畑の勢いは変わるのだろうか。広い地域で一面白い絨毯を見せる蕎麦はどうなるだろう。全国で食される蕎麦は作り手による差が大きいですが、それでもやはり地域差はあって、各地で新しい味に出会える楽しい食べ物の一つである。江戸前の濃いつけ汁に閉口する人もいるが、九州南部の甘さは驚きでも新鮮でもある。薬味の山葵は実は大根の代わったものさそうだ。昭和天皇が武生で名付けた越前蕎麦は大根の辛い絞り汁と生醤油で作るが、昔は珍しくなかったのであろう。一方、葱は青葱の地域もあるが、これは好みが分かれるかもしれない。ちなみに蕎麦も饅頭も博多の承天寺が発祥の地とのことだ。

今号では、大会関連の案内のほか来年度の学術小集会等の予定などが掲載されている。今後の計画に加えていただきたい。

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03 (5980) 0281 FAX: 03 (5980) 0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp